令和六年度　全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会　奨励賞

「水がもたらす恵みと脅威」

大洲市立肱川中学校　二年　北地（きたち）　梨衣紗（りいさ）

水。私たちの生活に必要不可欠な存在であり、遥か昔から生活に深く根付いているもの。水がなくなれば人間は生きていくことさえできなくなる。中でも日本の水は世界でトップクラスの安全性を誇っているため、水道水を直で飲むこともできる。一方、他の国の水はどうだろう。私たちが当たり前のように利用している水道水や自然の水も、海外ではそのまま飲むことはできない、安全性に欠けたものが多い。以上を踏まえて、日本の水はとても貴重で大切なものだと分かる。だが、水が与えるのは恵みだけではない。時には脅威として私たちに影響を及ぼすこともある。私は過去に、いつも恵みを与えてくれる水が脅威となって人々を襲ったのを目撃した。

私の住む町、愛媛県大洲市では、六年前に大きな水害に見舞われた。二〇一八年七月七日、西日本豪雨。私の住んでいる地域では三時間程度の停電と、外に出られないほどの激しい豪雨に襲われた。私は今までこんなに大きな水害を経験したことがなかったこともあり、その日の出来事がとても恐ろしく思えた。私の住んでいる地域は他の被災地と比べてそれほど大きな被害はなかったが、友達の中には大きな被害にあってしばらく仮設住宅に住むことになった人や、家が流され完全に建て直さないといけないような状態になってしまった人もいた。私の通っていた肱川小学校も被害を受けており、しばらくの間はグラウンドや一階付近に立ち入れずとても苦労した。この経験から私は、水は人々の生活を豊かにしていくだけのものではなく、時にはとても恐ろしい存在になるのだと痛感した。

愛媛県は水害が起こりやすい県であり毎年必ずどこかの川では洪水が起きているのが現状だ。私が住んでいる肱川町では西日本豪雨ほど

大きな水害は滅多に起こらないが、県全体で考えたとき水害が多いことは間違いない。現に県では、水害対策が呼びかけられていていざというときに備えてある。逃れようのない災害をできるだけ少ない被害で収めようと努力することも、人間と水が共存していくために必要な取り組みだと私は思う。

私はこの西日本豪雨を経験し水がもたらすのは恵みだけではないのだと知った。それでも私にとって「水」は、とても大切で生活に必要な存在に変わりない。私は中学一年生のときに行った肱川の水生生物調査を通して、それを実感した。水生生物調査の結果、肱川に生息する生物は綺麗な川にしか生息できない生物がほとんどであり、汚れている様子もごみのポイ捨てなどもあまり目立たなかった。これは肱川町に住む人たちが肱川のことを大切に思っていて、川の水を綺麗にする努力を続けているからこそ保たれている状態なんだとこの時に改めて感じた。飲み水としてだけでなく、炊事、洗濯、風呂や農業などにも水は必須だ。恵みを与えてくれるのも、災害で被害をもたらすのも同じ「水」である。だからこそ人間は、ただ水を消費するだけでなく計画的に水を利用している。愛媛県の取り組みを例に挙げると、災害に備えて県や市が洪水の危険がある河川の警戒に当たったり、また、防災物資の用意をするよう各家庭に呼び掛けたりなどの取り組みが行われている。このように万全な防災活動を続けてきたことで、人間はこれまで水と共存していくことができたのだと思う。私は正直、西日本豪雨に見舞われた際、自分はなにも対策ができていなかったと感じた。だからこそ水がもたらす脅威について深く考えて行動することも、水を利用している私たちの義務だと思う。これからはただ当たり前のように水を使うのではなく、節水を心掛けて水を計画的に使ったり、災害時の対策なども万全に行い、これからも水がもたらす恵みと脅威に上手く付き合っていきたいと考えている。